

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.166 2010.1.1



13編(左上)は大きな鏡餅の飾りつけ、
16編(左下)はお屠蘇でしょうか。
21編(右下)は門松作り、
22編(右上)は年の市の光景でしょうか。

もくじ

誌上博物館◇ボランティアと市民学芸員

「博物館ボランティアの集い2009」に参加して 2-3

資料紹介・ガイドコーナーはんでんぼく 4

江戸時代の庶民の読み物、草双紙—なかでも合巻と呼ばれる長編スタイルが、江戸の庶民を惹きつけました。柳亭種彦の『修紫田舎源氏』は、その最大のヒット作です。ここでは、山東京山の『大晦日曙草紙』の表紙絵から、江戸時代のお正月を4編紹介します。

ボランティアと市民学芸員

「博物館ボランティアの集い2009」に参加して

はじめに

去る10月26、27日、北海道大学高等教育機能開発総合センターと北海道開拓の村が主催する「博物館ボランティアの集い2009」に、松本まるごと博物館の



黄葉した北海道大学の銀杏並木

取り組みを報告するため参加させていただきました。そのシンポジウムでキーワードとなった「市民学芸員」について、松本まるごと博物館の市民学芸員やボランティアの皆さんとともに、他都市の事例を参考に考え直す機会とします。

1 “市民学芸員”という制度

松本市が市民学芸員という名称を公式に発信したのは、平成12年3月の「松本まるごと博物館構想」においてであり、かなり早い事例と思われます。当時、他の機関で使用していたかは把握していませんが、法律に則った資格の名称を改変する是非を、構想策定委員会で協議した記憶があります。

これに先立つ平成10年度の夏に、松本市立博物館が初めて行った市民協働の調査のキャッチコピーに「あなたもまちの学芸員」を使用しています。講座名は「あなたもまちの学芸員 見つけに行こう！松本の七夕さま」です。市民11人と博物館実習生11人を5つのグループに分け、その中に学芸員が1人ずつについての聞き取り調査で、翌11年度も継続して開催しました。

現在、市民学芸員という名称は、全国各地で使われています。西日本には「地域学芸員」*という事例もあり、特に九州北部にその例が多いようですが、ボランティア団体の名称となっているところも見られます。しかし、一部の施設で会場整理に従事するボランティアにまで、その名を使用しているのには首を傾げたくります。

2 市民学芸員制度の分類

市民学芸員という名称を、ボランティアに用いているところは、相模原博物館等数多く見受けられます。ただし、このボランティアの活動内容も非常に幅が広く、ことばを使う人によってかなり

イメージが異なってきます。その多くは、ミュージアム都留などのような、解説やガイドツアーを行うといった事例です。滋賀県の湖北エコミュージアムの地域学芸員によるガイドツアーは、導入の早い事例です。また、吉野ヶ里遺跡を擁する神埼市など、博物館以外でも案内ボランティアにこの名称を付しているところがあります。

最近、知的ボランティアということばを耳にしますが、博物館をフィールドとした知的ボランティアに従事する人を、市民学芸員という名称で養成しているところが多く、主流派といえそうです。その特徴は、解説ばかりではなく、博物館のあらゆる活動に従事する点にあります。袖ヶ浦市郷土博物館の取り組みが早く、浜松市博物館などが続きます。飯能市では、平成12年に市民学芸員の要請を始め、現在は解説中心の活動からのステップアップを目指しているようです。

小城市のように市民学芸員の認定方法に、地域検定を導入している事例もあります。「小城どこでんミュージアム 屋根のない博物館」という名称で、文化課が事務局となっています。文化課が主催する講座や講演会の受講も条件となっていますが、最終的には試験認定で市民学芸員の称号が得られるシステムです。また唐津市でも観光学芸員という名称で、認定試験を行っています。

小城市もまちづくりの人材養成を目的としていますが、三原市では「地域文化財をまちづくりに活かす人材養成」と明記して、本年度から市民学芸員養成講座を開始しています。

3 伊達市噴火湾文化研究所の事例

今回、ともにパネリストを務めた青野友哉氏が所属する伊達市噴火湾文化研究所でも、平成19年度から高校生以上を対象に市民学芸員制度を導入しています。受入態勢や指導方法に違いは見られますが、共通点も多く見られます。

伊達市の活動は、松本市の基幹博物館構想策定にあたり着目したところでもあります。市の規模こそ異なるものの、伊達市開拓記念館の施設更新を計画しており、新しい博物館の中心を担うべき市民協働の事業として、平成17年度の研究所の開所に合わせて始まったボランティア「かけはしの会」とともに、その柱としています。

伊達市の市民学芸員は、認定という形式を取っています。受講の内容は、①研究所の主催する講演会等に参加しレポートを作成すること、②学芸

員資格の取得を目指す学生とともに博物館実習に参加すること、③修了論文を作成すること、の3つです。

市民学芸員に認定されると、専門の見地から文化行政に参加・協力することとなり、それぞれの研究をまちづくりに活かすことを目的としています。噴火湾文化研究所は、教育部と同列の部局で、開拓記念館や有珠郷土博物館を所管する文化課を下部組織とする、自然と文化を伊達市のまちづくりに活かすための部署となっています。

4 東京都中央区の“粋いき区民フォーラム”

もう一つの事例報告は、東京都中央区の「粋いき区民フォーラム」の取り組みでした。平成18年に始まった「中央区民カレッジ」の生



基調講演をする大久保邦子氏

涯学習サポーター養成コースの受講生で結成された集まりで、今回基調講演を行った文化ボランティアコーディネータの大久保邦子氏が深く関わっています。

中央区の生涯学習サポーター養成コースは、初めは天文館のサポーター、生涯学習コーディネーター、まちなか案内と、目的を決めてボランティアの養成を行ってきましたが、本年度から3年間の単位取得制でさらなる活動の場を広げる試みをしています。

市民学芸員ではなくボランティアという名称ですが、最終的には受講生が講座を企画運営することを目指しており、この11月にはその第一弾となる3つの講座が開催されたようです。受講生たちの自主的な活動は、本市の市民学芸員養成講座も学ぶべき点が多いと思います。

5 ボランティアと市民学芸員

大久保氏の講演にもありましたが、ボランティアは第3の目といわれます。ボランティアは、博物館の利用者ではなく、もちろん運営者でもありません。運営者(=行政)と利用者(≡市民)をつなぐ存在なのです。

市民学芸員はどうでしょうか。市民学芸員は、

私見としてはより積極的な博物館利用者にとらえています。伊達市の青野氏は、「博物館にどっぷりつかって研究したい」人を対象にしていると言っていました。私も同感です。

市民学芸員も、無償で博物館の活動に協力していただいているのですから、広い意味ではボランティアには違いありません。シンポジウムで、北大生が「ボランティアというゆるい空間」という発言をしました。何らかの形で社会とつながりを持っていたいと考える学生は多いが、拘束をされるのは好まない—彼女のイメージするボランティアとは、そんなところでしょうか。

6 開拓の村のボランティア

北海道開拓の村のボランティアは、現在200名あまりの登録があるといえます。年会費1,000円で、夏期は週1日、曜日を決めて解説(ガイドツアー・建物内常駐)、演示、行事協力の活動に従事し、冬期は一部会員が建物内のみで活動しています。

活動は、開拓の村が定めることとなっており、順番であらゆる業務に従事しているようです。これは現在活動するボラン



第2日目に案内いただいた開拓の村ボランティアの神本さん

ティアさんの総意によるのですが、開設に携わった元館長の中村斎氏によると、開設当初は解説だけ、あるいは演示だけに従事するボランティアもいたそうで、現在の在り方に疑問を投げかけていたのが印象に残りました。

おわりに

以上、「博物館ボランティアの集い2009」での事例に、インターネット等で収集した各地の事例を加え、市民学芸員について概観してきました。こうした事例から、全国で博物館を市民に開放する動きが広まっていることが分かります。

松本まるごと博物館でも、市民学芸員やボランティアの皆さんが満足できる活動の場を作っていくよう、各地の事例に学んでいかななくてはなりません。

※日本地域資源学会がこの名称で養成事業を行っている。

(旧制高等学校記念館 学芸員 木下守)

合巻『大晦日曙草紙』

今号の表紙では、『大晦日曙草紙』を紹介しています。これは天保10年(1839)から安政6年(1859)にかけて刊行された、山東京山作の合巻です。全26編52巻のうち、23編46巻が時計博物館に収蔵されています。表紙絵は三代豊國の作ですが、時計博物館の収蔵する11編までの22巻は、後刷本のため表紙絵は省略されています。内容は大晦日に関する話を連載したもので、表紙絵や挿絵も大晦日あるいは正月にちなんだものが多く、江戸の正月の様子がうかがい知れます。

なかをのぞいてみましょう。右の図は、初編の第二「りんきのなかへ梅の早咲」の挿絵です。酒油両替の店の前を描いています。店の間口いっぱいに伊勢流の紙垂や裏白を付けた前垂れ型の注連飾りが張られ、左には羽子板や



風を持った女子ども、右端にはそばの出前が見えます。こうして、絵を見るだけでも楽しいものです。いかがです、江戸の賑やかな正月が浮かんできませんか。
(旧制高等学校記念館 学芸員 木下守)

ガイドコーナー はんでんぼく

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

博物館友の会企画展「思い出の品」

松本まるごと博物館友の会では、会員の「思い出の品」を出品し展示会を開催します。
主催 松本まるごと博物館友の会
会期 1月2日(土)～31日(日)
ただし、2日は午前10時～午後3時、3日(日)は休館
会場 松本市立博物館

年中行事シリーズ「小正月—まゆ玉サービス」

松本に伝わる歳時記に合わせ、来館者にまゆ玉サービスを行います。
日時 1月14日(木) 午前10時から
(なくなり次第終了)
場所 松本市立博物館エントランスホール

松本民芸館から ☎0263-33-1569

体験講座「楽しいやしょう作り」

郷土で慣れ親しまれている「やしょうま」作りを行います。親子でのご参加もお待ちしております。
日時 1月31日(日) 午前10時～午後3時
場所 里山辺下金井公民館
受講料 500円(材料費)
講師 横山律子氏
定員 20名 要申込み(定員になり次第締切)
申込 松本民芸館まで
持ち物 手ぬぐい・タオル、調理用エプロン

時計博物館から ☎0263-36-0969

あめ市歴史展示「松本のあめ市」

松本のあめ市について、関連資料や写真を展示し、祭りの変遷を紹介します。
会期 1月8日(金)～2月7日(日)
会場 時計博物館 3階企画展示室
観覧料 企画展は無料(常設展は有料)

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

空穂生家百人一首教室

日時 1月16日(土) 午前10時～12時
講師 寺沢尚武氏
場所 窪田空穂生家
受講料 無料
申込み 実施日まで

冬季文化講座「冬日ざし」

- 空穂自伝を読む
日時 2月6日(土) 午後1時30分～3時
講師 上條宏之氏(長野県短期大学学長)
- シベリア抑留生活を語る
日時 2月13日(土) 午後1時30分～3時
講師 穂苅甲子男氏(シベリア抑留体験者)
- 「世界に稀な日本の文化」その再興
日時 2月20日(土) 午後1時30分～3時
講師 降幡廣信氏(建築家)
- 街なみに江戸時代の松本をさぐる
日時 2月27日(土) 午後1時30分～3時
講師 後藤芳孝氏(松本城研究専門員)
- ケーナの世界
日時 3月6日(土) 午後1時30分～3時
講師 吉良健一朗氏(ケーナ奏者)

受講料 各回100円
定員 50人
会場 窪田空穂生家
申込み 窪田空穂記念館まで

考古博物館から ☎0263-86-4710

ショーウィンドウパネル展

八十二銀行大名町通りショーウィンドウのスペースを利用して、考古博物館所蔵資料を写真で紹介いたします。近くを通りかかった際はぜひ足を止めて見てください。
会期 2月5日(金)まで
観覧料 無料
会場 八十二銀行松本営業部ショーウィンドウ(大手3-1-1)

旧開智学校から ☎0263-32-5725

特別展「卒業証書展」

明治から昭和にかけて授与された、卒業証書を紹介する特別展を開催します。
会期 12月2日(水)～3月1日(月)
場所 旧開智学校校舎1階特別展示室
観覧料 通常観覧料(大人300円、小中学生150円)

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

第82回 サロンあがたの森

話題 明・清の大運河文化と近世日本
日時 1月9日(土) 午後1時30分～4時
会場 あがたの森文化会館1-5教室
話題提供者 山田博光氏(比較文学者)

第83回 サロンあがたの森

映画 未完成交響楽
日時 2月13日(土) 午後1時30分から
会場 あがたの森文化会館講堂ホール

お詫びと訂正

前号のお知らせで、安曇資料館の冬期休館期間が誤っていました。ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。次のとおり訂正いたします。

平成21年11月16日(月)～平成22年4月26日(月)

あとがき

昨年が続いての正月号の編集担当。表紙は何にしよっか、季節ネタは使いつくしたし……。季節ネタ!? そうだ!! ということで、古果で受入れた資料を紹介させていただきました。いかがです!? お正月らしいでしょ!! (M.K.)

あなたと博物館 No.166

発行年月日/平成22年1月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: <http://www.matsu-haku.com>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp
印刷 川越印刷株式会社